

『古事記』学術支援データベースの構築 —系譜の図像化とインターフェイスの検討—

KOJIKI Knowledge Assistant Database System for Academic Usage: A Study of Making Figure and Interface of Genealogy

生田 敦司*, 齋藤 晋*, 杉山 正治**, 柴田 みゆき*, 宮下 晴輝*
Atsushi Ikuta, Susumu Saito, Sei-ji Sugiyama, Miyuki Shibata, Seiki Miyashita

*大谷大学文学部人文情報学科, 京都市北区小山上総町
Otani University, Koyamakamifusa-cho, Kita-ku, Kyoto

**立命館大学理工学部, 滋賀県草津市野路東1-1-1
Ritsumeikan University, 1-1-1 No-ji-higashi, Kusatsu-shi, Shiga

あらまし:先稿で提案した『古事記』学術支援データベースでは, 検索手段と情報閲覧を提供した。しかし, 操作上の手続きが煩雑であった。また, 内容把握も可視表現も難しい『古事記』の系譜提示に問題を残していた。既存の紙媒体による様々な系図表示手法は, 媒体の限界から構成データが省略されるなどの欠点があった。コンピュータによる既存の系図システムもこの欠点を克服していない。この問題を受けて, これまでに, シームレスな拡大・縮小表示によって高い視認性を可能にするシステムのプロトタイプを構築した(MaSSRiDGe V1.00)。さらに神話に特有の系譜を直観的に理解できる図像化手法を考察し, システムの改良をおこなった(MaSSRiDGe V1.10)。本研究では, MaSSRiDGe V1.10を組み込むとともに, より少ない手順でアクセスできる操作性を有するプロトタイプを考察・実装した。

Summary: “KOJIKI” knowledge assistant database system for academic usage aims to help users retrieving information with various ways. The final goal of our system is to show data with flexible and interactive way, which users can change, what they can see. In the first step, we made a prototype of display system for genealogy named “Magnifying And Simplifying System for Retrieve and Display Genealogy Version 1.00” (MaSSRiDGe V1.00). Understanding family lines and figuring genealogies are, however, difficult in “KOJIKI” for three reasons. First, genealogy with precise and complete data is like a maze. Second, many easy-to-see genealogies have limited main names, lines and generations on a paper whatever large or small. Third, existing displaying system for genealogy do not show satisfactory solution on these two problems. MaSSRiDGe V1.00 overcomes these three problems. And more, in mythology, the main target of making genealogy is for gods and goddesses. There are, however, many differences from making human genealogy. That is, only conjugal and its derivative display is incomplete for mythological genealogy. To overcoming this problem, we introduced new showing style and applied to our MaSSRiDGe V1.10. In this paper, we introduce our latest database system with MaSSRiDGe V1.10. This system can access various data simpler way than our first system.

キーワード: 古事記, データベース, 系図, 神話, MaSSRiDGe

Keywords: KOJIKI, database, genealogy, mythology, MaSSRiDGe

1. はじめに

『古事記』の学術研究を支援するシステムの構築が我々のプロジェクトの目標である。人文科学者が古代・上代に関する文献研究を行う際、『日本書紀』をはじめとする諸史料との対比が行われる。この際、『日本書紀』などのような

編年体史料には, 記事の指標となる年月日などを着地点として既に索引などが出版され, 普及度も高い。これに対し『古事記』は年月日などの記事指標が存在しないため, 索引を作成する際, 特に索引と本文情報の指標—前述の着地点—との互換性が, 索引作成者の判断に任されることが

常であった。このため編年体史料の索引に比べ、『古事記』の索引は普及度が低い。

上述の問題点から、先稿では、『古事記』について上巻を対象として、研究者が必要とする基本機能を調査し、史料情報の中から、神話における神のデータとその付帯属性を簡便に抽出するデータベースシステムのプロトタイプを提示した^[1](以下、文献[1]で示したシステムを「プロトタイプA」と称する)。

本稿では、付帯属性の一つである系譜情報を表示するシステム(MaSSRIDGe)との連携を中心としてプロトタイプAの各種改良を検討した(以下、これを「プロトタイプB」と称する)。

2. プロトタイプAの検証

2.1 基本機能

本データベースは、先行研究の成果に基づいて『古事記』本文の内容に区切りを設定し、それぞれに見出しを付した。この見出しの存在は、『古事記』の通読経験者が本文の内容を個人レベルで経験的に復元することを促すとともに、データベースにおける語彙索引の着地点として明確に表示させることを可能とする。

プロトタイプAでは、検索画面において語彙検索を行い、次の画面表示を選択できるようにした。

- ① 検索語彙の存在する本文画面を選択して表示させる。
- ② 検索語彙である神の位置づけを系図で確認する。
- ③ 検索語彙に関わる『延喜式』神名帳のデータを表示する。

これらはそれぞれ別の画面で表示されるように実装を行った。この場合、本文を閲覧した後、図像資料や関連資料の画面へ閲覧先を変更する際は、一旦検索結果の画面へ戻り、次にどの画面へ移動するのかを指定して、再び目的画面へ移動する必要があった。

これでは、システム内の移動作業が複雑で、かつ煩雑な印象を与える可能性がある。そこで、プロトタイプBでは、検索語彙としての神名¹が系図情報とリンクするかたちで画面切り替えを行うように改良した(図1)。

2.2 系図表示

プロトタイプAでは、大国主神をモデルとして検索結果に対する系図表示を想定した。具体的には、大国主神を

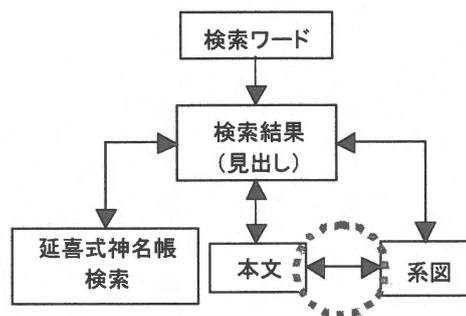


図1 プロトタイプAの概念図

中心に、系譜情報の叙述に従って関係を有する神を野線²で結び、一画面内に表示しうる範囲で図像化を試みた。一画面内に表示しきれないものは、画面境界付近の系図野線の延長上に矢印を示し、矢印からそれにつながる続柄を示す系図画面へとリンクする形を用いた。この方法は以下のような問題を有している。

- a. 仮に中心となる神が非常に多くの神を繋る、あるいは子として非常に多くの神を生んだことをあらわす場合などでは、一画面に収まらない。
- b. 隣り合う系図画像を順次たどってゆく形で実装を行った場合、遠隔関係にある神同士の関係性が簡単には把握できない。

本研究では、上記2点の問題を解決し、系図の詳細から全体像まで簡便に認知できるシステムを開発し、プロトタイプBに実装した。以下、その詳細を論述する。

3. 系図表示システム

3.1 これまでの系図表示

従来の系図表示に問題が生じる原因の一つは、紙面の大きさに依存することであった。これによって生じる問題点は、大きく以下の3点が挙げられる。

- A1. 叙述が緻密であった場合、数世代を表示することが難しく、主要な人物のみが強調されやすい。
- A2. 系図全体を表示することが困難で、主要な世代のみが強調されやすい。
- A3. 狭い紙面へ無理に表示すると、関係を示す野線が複雑になる。

コンピュータと電子テキストと系図ソフトの登場は、紙面の制約に依存する問題を解消したはずである。しかし、上記の問題を解消し、効率良く表示する手法に関する議論はまだ少ない。コンピュータ上での系図表示の問題点は、

¹ プロトタイプは上巻を対象とする。『古事記』全体をみた場合には人名や氏族名も含む。

大きく以下の2点が挙げられる。

- B1. 従来の系図表示ソフトでは、多くの場合、系譜情報が均一の大きさで表示される。そのために、複雑さが解消されていない。
- B2. 情報の省略は無いが、そのために生じる複雑さを回避するためにリンクを設定する場合がある。これは、書籍の紙面サイズの制約をウインドウサイズの制約に置き換えたに過ぎない。

プロトタイプAにおいても、上記5点の問題を有していた。更に、系譜に類似する情報を表示するシステムとして、遺伝子情報を表示するシステムや化学式等を表示するシステムなどがあるが、これらの多くは複雑長大な系図を表示するために開発されたものではないため、系図表示に適切とはいえない。

3.2 系図表示システムの構成要素

前節に掲げた5点の問題点を総合的に解消し、視認性の高い表示方法を実現するためには、拡大・縮小機能が必要であると考え、そのシームレスな表示方法を検討した。

前節A1.の人物省略表示と前節A2.の世代省略表示を解決するには、拡大による詳細表示の出現が望ましい。これにより、前節B1.の問題も同時に解決する。また、前節A3.で示した関係表示の煩雑化の問題に対しては、制約のあるウインドウ表示範囲で広大なデータが全方位に、かつシームレスに移動されることが望ましい。これによって、前節B2.の問題も同時に解決する。

このように拡大・縮小によって問題解決を行うためには、情報が表示されたり表示が隠されたりする必要がある(以下この操作を「表示/非表示」と表現する)。情報の表示/非表示を行うためには、系譜の構成要素に階層構造を持たせ、情報を差別化する必要がある。

一方、シームレスな移動と拡大・縮小を行うと、操作の利便性を向上させる半面、現在閲覧している系図中の位置を見失いやすい。これを解決するためには、系図全体のどこを見ているのかを把握できることが求められる。

これらの要求を満たす類似のシステムとして、Google Mapなどの地図画像表示システムの存在が想起される。しかし、系図表示システムに関して同様のインターフェイスは、これまで管見のうちに見られなかった。

更に、プロトタイプに実装する際のデータ送受信を考慮すると、テキストベースの情報が提供されることが望ましい(3.3参照)。

そこで先稿において、テキストベースの系図表示システムに地図画像表示システムのような操作感を取り入れる方法を検討し²、その基本機能を実現するプロトタイプシステム、Magnifying And Simplifying System for Retrieve and Display Genealogy Version 1.00, 略称「MaSSRIDGe V1.00」ならびにV1.10を構築した^{[2][3]}。

3.3 系図表示システム構築の基本概念

MaSSRIDGeの基本概念を既存の地図画像表示システムと比較しながら提示する。

地図画像表示には、主に以下の要素が用いられる。

- (1) 地図画像情報
- (2) 表示位置の緯度・経度情報
- (3) 縮尺情報

これらの情報は、情報表示の電子化が行われる以前から用いられてきたものである。これに対し、系図表示システムが必要とする要素は、はじめから諸要素を構築することが求められる。

具体的には、(1) 地図画像に相当する系図情報は、系図作成者が、系譜史料から系図化する情報を抽出する必要がある。既に紙媒体などの系図が存在する場合には、それを参考に情報を抽出することも可能である。

次に、(2) 表示位置に関して、世界地図では経緯度が存在する。このため、表示面積に対する全体像と各部分の位置情報が容易に設定可能である。これに対して系図では、系譜情報が文章であった場合、データ作成者が系図の全体像を構想し、個々の名前や系譜関係を示す野線も含めて、各部分の情報配置を座標系として決定する必要がある。システム構築に当たっては、図の始点と終点の位置、及び、系図を表示するための面積は、全て新規に構築されることになる。

最後に、(3) 縮尺について、地図画像表示システムは拡大・縮小の単位を世界標準単位で決定できるが、系図表示システムにはそれが存在しない。このため、何らかの価値基準に従った単位を仮に想定する必要がある。

以上の3要素に従って、MaSSRIDGeは、XMLで書かれた系譜のテキストデータを読み込んだ上でこれを整形し、全体と部分を網羅して一体化したような系図を表示する。

² 地図画像表示システムのような操作感を取り入れるという表現は、本システムにおいてGoogle Map APIを利用するという意味ではない。XMLに記述されたテキストベースの系譜情報を表示する際、画像ファイルを用いずにGoogle Mapのような操作感を得るためのAPIを独自に開発するということである。

これにより、ユーザは適宜、系図情報の表示／非表示をコントロールしつつ、画面の拡大・縮小やシームレスな座標移動が可能となる。

4.系譜の図像化

4.1 神話における系図情報の選別

4.1.1 神から発生するもの

「系図」「系譜」には、それぞれ、先祖からの系統や、物事の由緒といった意味がある。

記紀神話は神話学における民族・民俗の要素を含みながらも、7世紀後半から8世紀初頭にかけて体系的にまとめられたものであり、しかも高度に政治的意図によって叙述されていることは、学界において多数の支持するところとあってよい^{[4][5][6]}。そこで、神々の系譜が『古事記』成立時に何を意図して作られたものかを考慮し、学界の多数派意見に依拠して系図とすることとした。

プロトタイプBでは、史料特性を加味した系図表現を考える際、神話叙述をたどった結果、天皇の叙述へとつながることが示されるのが望ましいと考えた。

本文をたどり系図化を試みると、伊邪那岐神と伊邪那美神が婚姻の後に大八島国を生んだとしたり、大氣都比賣の斬られた肢体から豆や穀物が生成したりというように、生み出されるものが神以外のことがある。この場合、生み出されるものに神格を認めるか否かは研究者の解釈により異なる。

これにより、系図において何を掲示すべきかという検討が必要になる。先行の出版物によっては、本文中に記載されたもの全てを系図に表現したものもある^[7]。

大八島国の生成にみられる島々は、律令国家における国土観念の表出であると考えられる^[8]。また、大氣都比賣から生じるものは五穀の「種」として叙述されている。

以上を踏まえて本研究では、一般名詞や固有名詞と同様の呼称で、必ずしも神格と判断する解釈が適当でないものについては、表示要素から除外した。

4.1.2 神の親子関係

『古事記』上巻において、神の発生をあらわす用字は「生」もしくは「成」である。これら用字法の厳密な使い分けは不明だが、共通して神の発生を示していると考えられる。

また、神の発生を示す叙述はないが、「吾子」や「僕子」などと表現して、物語上の神が特定の神の子であることが認知できる場合がある。この事例も、全ての親子関係を系図化する上で重要な情報である。

以上から本研究では、系図に表示する下位世代の神を選別する条件として以下2つの条件を定めた。

- (1) 「成」または「生」の字をもって誕生が表される。
- (2) 文脈上「子」と認知でき得る。

『古事記』上巻では、神話の冒頭部分で「造化三神」や「神世七代」と称される神が「成れる神」として次々に登場する。これらは「独神」や神世七代の男女対神として、連続する系譜関係を持たないが、その独神に子がある場合が見られる。かつ、文脈上神々の連続性が『古事記』上巻の世界観を形成していることも考慮しなければならないので、これらの独神も他の神と同様に扱う。

4.1.3 単神から生じる神の分類

『古事記』上巻の神話において、神は一柱のみで下位世代の発生を担うことがある。それには次の2つのパターンがある。

- (1) 「物實」(ものざね)との接触より生まれる。
- (2) 神自身の形質変化から生まれる。

(1)の物實とは、物のたね、すなわち生成のもとになるものをいう³。つまり物實は、新しい神の生成という意味において重要な役割を果たしている。従って、物實を神格の無い単なる物体として単純に区別することはできない。また、(2)は、神の一部やその死体から新世代が誕生する場合で、先述の大氣都比賣のような事例をさす。

4.2 系図の表現と配置

4.2.1 一般的方法論の踏襲

我々のシステムでは、『古事記』の情報を表現するため、縦書きの日本語と同様、画面の右上を始点として、世代の進行を下向きへ、同世代・配偶関係を左へ進行させる。

系図の表現は基本的に、文化人類学で行われている方法を踏襲して行う^[9]。したがって、男性神と女性神の間に生じる神は、従来の人間の系図を表すルール(=)が適用可能である。

造化三神のような独神や神世七代の男女対神は、上述の系図表現を行うことはできない。これらは始点と進行方向に従って、叙述の登場順に、叙述構成の区別で上から下へ、同じ叙述構成要素は右から左へ、それぞれ配置する。

³ 『岩波 古語辞典』。

4.2.2 単神から生じる神

下位世代の神が物實を介して生じる場合、神と物實の関係は婚姻関係を示すものではない。しかし、神と下位世代を単なる親子関係(|)で結べば、婚姻関係の記述省略と認識される可能性がある。

このような形式を系図で表示するための統一したルールは無い。そこで、単神から生じ、かつ、物實が介在することを直観的に理解できる表示方法が必要となる。また、単神の部分から下位世代が生まれる場合(4.1.3節(2))も、同様の問題を孕む。

そこで、本研究は、文化人類学で「性関係」に用いる記号(一)^[6]をアレンジして次のようなルールを考案した⁴(付録4 参照)。

- (1) 下位世代の神を発生させる単神から「一」を引く。
- (2) (1)の途中または終端に、親子関係の「|」を引く。
- (3) (2)の途中で太い横線「一」を引く。
- (4) (3)に下位世代の発生要因となる物實もしくは肢体の名称などを書く。

さらに、(3)と(4)の行程で、発生要因が物實の場合は、親となる神の外部要因であることを示すために、親子線を境界に親神の反対方向へ「一」を引き、肢体の一部などである場合には、親神の内部要因であることを示すために、親子線を境界に親神側へ「一」を引く。

これによって、下位世代が単神の一部等から生じるのか、または物實との接触から生まれるのかの違いを、直観的に見せることができる。

4.3 情報の階層分類

地図画像表示システムでは、最小縮尺表示の場合と、最大縮尺表示の場合、あるいはその中間的な縮尺表示において、表示される情報の大きさや詳細さが異なる。これは地図情報が階層構造を有していることによって実現されている。

そこで、MaSSRIDGeでも、ユーザコントロールに基づく表示/非表示を実現するために、『古事記』上巻の系譜情報から形成する系図について、階層分類を構想した。

本研究では史料内容の解釈に基づいて、以下に述べる①～⑥の判断基準に従って階層分化を行った(図2)。このような叙述解釈の手法は、『古事記』にとどまらず、他の史料にも適用可能である。また、こうした解釈には多様性が

⁴ これはあくまで性関係の「一」を利用して、単神から神の発生する要因を示すものである。したがって、記号としての性関係は意図しない。

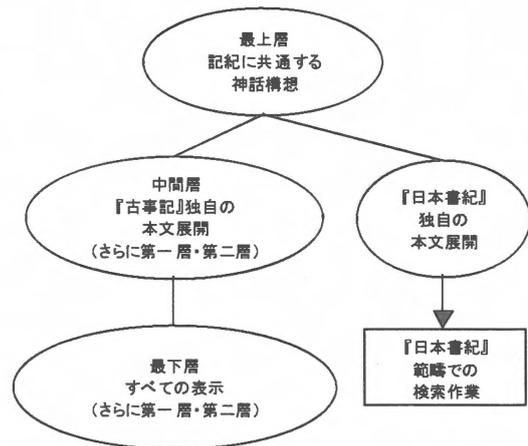


図2 系図表示の概念

想定されるが、MaSSRIDGeシステムではXMLを基本とした柔軟な改作が可能である。

(1) 最上層

『古事記』は『日本書紀』と対比して用いられる頻度が高い。このことを考慮すると、双方に共通する内容と、共通しない独自の内容が加味されて表示されることが、史料特性を考える上でも望ましい。そして、前節(4.1.1)で述べたように、記紀神話は高度に政治性を帯びた叙述性を認めることができる。

記紀におけるこのような叙述意図を踏まえると、最も省略された系図は、①記紀に共通していること、②神統譜が上巻最後の神武天皇に最終的につながること、が求められる。

神話における、いわゆる天孫降臨詞章の後には、系譜的に見ると、山神を代表する大山津見神や海神の代表である大綿津見神の女を娶って、神裔が続いている。これは記紀共通の叙述である。そして、天皇が発生する以前に、山・海を内包して、支配領域観念が系譜的に集約されるという政治性を意図したものと解釈し(③)、最上層の表示に加えた。

(2) 中間層

系図画面の拡大(寄りのイメージ)によって、最上層で非表示とされた情報が徐々に追加されなければならないが、その結果、次第に『古事記』の情報と『日本書紀』の情報とに齟齬が生じるようになる。本システムが『古事記』内の情報検索を基本機能とする性格上、共通項以外の『日本書紀』との対比は、二次的作業となる。そこで中間層以下は『古事記』の内容に特化し、『日本書紀』との整合性は捨象した。

また、非表示であった情報が急激に増加する見え方は、かえって拡大・縮小と表示／非表示の特性(引き寄りのイメージ)を阻害するものと考えた。そこで、中間層はさらに細分化し、第一層と第二層とを設定した。

中間層での内容は、『古事記』で独自な神話展開が行われはじめる印象を意識し、第一層では、④検索結果に現れる本文見出しの物語詞章などにおける中心的個性を表示することとした。櫛名田比賣、大国主神、海幸彦・山幸彦の詞章における火照命、などがそれに当たる。

第二層では、⑤第一層の個性に関わって神話の展開に動きをもたらす個性を設定した。天の岩戸隠れの詞章・天孫降臨詞章における思金神、大国主神の国造り詞章における少奈毘古那神などがこれに当たる。

(3) 最下層

最下層は、⑥これまで表示されなかった残りの要素をすべて表示する。この際、中間層と同様、急激な情報の増加が懸念されるが、実用試験の段階で仮にそのような印象を与える場合には、最下層内をさらに細分化を行うことができる。

4.4 神名の別名表示

『古事記』上巻の神は複数の名を有することがある。また、大国主神のように、それぞれの別名で別の神との婚姻関係を持ったり、物語が展開したりする。さらに、系譜では「火之夜藝速男神」の名がはじめに示されるのに、物語では別名の「火之迦具土神」が専ら用いられたりすることがある。このため、読者やシステム利用者の理解のためには、同一の神格の名を別名とともに直観的に一致・理解させる仕組みが必要となる。そこでMaSSRiDGeでは、HTMLのツールチップ機能を採用した(図3)。

表示画面において複数の同一神格名が列挙されることは、視覚的に煩雑な印象を与える。この弊害を回避するために、従来であればリンクを多用することが行われた。

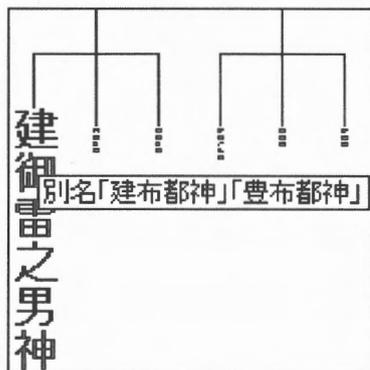


図3 別名表示

MaSSRiDGeは、拡大・縮小と表示／非表示を視覚的に可能とすることで、一枚のシートに大容量の情報を提示することが最大の特徴である。リンクの多用はその特徴を損なうものであり、ツールチップの利用は、本システムの開発趣旨に十分有効な手段である。

以上述べてきたように、『古事記』上巻の系譜情報は現実の人間社会と異なる様相を呈する。本研究はプロタイプBに、4.1・4.2節の考察を踏まえたシステムを搭載している。

5. おわりに

以上、『古事記』学術支援データベースについてプロタイプBの概要を提示した。

本稿においては、系図の問題に注目しその実装を試みることに特化して議論した。今後は、本稿の問題の更なる進展を図るとともに、基本機能である検索について、神以外の検索語彙の拡充、あるいは『延喜式』神名帳データに関する議論なども並行して、引き続き検討を加えていく予定である。

参考文献

- [1] 生田敦司, 齋藤晋, 柴田みゆき, “『古事記』学術支援データベースの構築—基本機能の検討—”, 人文系データベース協議会, 人文科学とデータベース, 第12回公開シンポジウム-5, pp.47-54, 2006.12.23
- [2] 杉山正治, 齋藤晋, 生田敦司, 柴田みゆき, “『古事記』学術支援データベースの構築—系譜史料の表示形式に関する検討—”, 情報処理学会・第75回人文科学とコンピュータ, 2007-CH-75(7), pp.47-54, 2007.07.27
- [3] 柴田みゆき, 杉山正治, 生田敦司, 齋藤晋, 宮下晴輝, “『古事記』学術支援データベースの構築—神話系譜史料の表示形式に関する検討—”, 情報処理学会・第76回人文科学とコンピュータ, 2007-CH-76(9), pp.57-64, 2007.09.27
- [4] 津田左右吉, “神代史の研究”, 岩波書店, 1923
- [5] 井上光貞 責任編集, “日本書紀”, 中央公論社, 1983
- [6] 上田正昭, “日本神話”, 岩波書店, 1970
- [7] 三浦佑之 訳・注釈, “口語訳『古事記』完全版”, 文藝春秋, 2002
- [8] 生田敦司, “おほやしま・やそしま・やしま—日本古代の国土を示す用語と概念—”, 洛北史学第3号, 2001
- [9] 蒲生正男, 山田隆治, 村武精一 編, “文化人類学を学ぶ”, 有斐閣, 1979

検索ワード(神名)を入力してください。

伊邪那岐命

検索したい内容を以下から選択してください。

- この神が登場する本文への「見出し」を検索表示
- この神の系譜を表示
- 『延喜式神名帳』の検索結果

検索

「検索」ボタンをクリックすると、ここに各種検索結果が表示されます。

付録1 初期画面

検索ワード(神名)を入力してください。

伊邪那岐命

検索したい内容を以下から選択してください。

- この神が登場する本文への「見出し」を検索表示
- この神の系譜を表示
- 『延喜式神名帳』の検索結果

検索

検索結果

【伊邪那岐命】が登場する本文への「見出し」

【伊邪那岐命】の別名を紹介する「見出し」

- ・ II・III 神代七代(男女対神)
- ・ IV-1 国土の固成
- ・ IV-2 イザナギ・イザナミの結婚
- ・ IV-3 大八島国の生成
- ・ V-1 神々の生成
- ・ V-2 火神の誕生
- ・ V-3 黄泉の国
- ・ V-4 禊祓と神々誕生
- ・ V-5 三貴子の分治
- ・ V-6 スサノヲの涕泣

付録2 検索結果画面

『古事記』本文

II・III 神代七代(男女対神)

次に成れる神の名は、宇比地速神、次に妹須比智速神。此の二神の名は音を以るよ。く

次に、角杵神、次に妹活杵神。二柱

次に、意富斗能地神、次に妹大斗乃辨神。此の二神の名も亦、音を以るよ。く

次に、於母陀流神、次に妹阿夜訶志古泥神。此の二神の名は皆音を以るよ。く

次に、伊邪那岐神、次に妹伊邪那美神。此の二神の名も亦、音を以るよ。上の如くせよ。く

上の件の國之常立神、以下、伊邪那美神以前を、并せて神代七代と稱ふ。上の二柱の魂神は、各一代と云ふ。次に變入る十神は、各二神を言せて一代と云ふ。く

検索したい内容を下から選択して、本文中の神名をクリックすると、該当する検索結果が表示されます。

- この神が登場する本文への「見出し」を検索表示
- この神の系譜を表示
- 『延喜式神名帳』の検索結果
-

付録3 本文表示画面

The screenshot shows a search interface with the following elements:

- Search Bar:** Contains the text "伊邪那岐命".
- Search Options:**
 - この神が登場する本文への「見出し」を検索表示
 - この神の系譜を表示
 - 『延喜式神名帳』の検索結果
- Search Results:** Displays "【伊邪那岐命】系譜".
- Genealogy Diagram:** A tree diagram showing the lineage of Izananokami. It branches into several groups:
 - 天之神中主神
 - 高御産巢日神
 - 神産巢日神
 - 宇摩志阿耜日尊比古速神
 - 天之常立神
 - 神世七代 (Izananokami)
 - 皇孫野神
 - 宇比速速神・須比智速神
 - 角杵神・活杵神
 - 意富斗能地神・大斗乃辨神
 - 於母陀流神・阿夜訶志古泥神
 - 伊邪那美神
 - 速御雷之男神
 - 海神、大綿津見神
 - 山神、大山津見神
 - 鳥之石楠船神
 - 大重部比売神
 - 火之迦具土神

付録4 系図表示画面